

会 長	署 長

令和4年度第1回萩警察署協議会会議録

開催日時	令和4年6月9日（木） 午後2時00分から午後3時45分までの間	
開催場所	萩警察署講堂	
出席者	委 員	松岡会長、松田副会長、内田委員、溝部委員、岩本委員、山影委員、白松委員、大田委員、椋木委員、山本委員 計 10名
	警 察 署	署長、副署長、警務課長、会計課長、生活安全課長、地域第一課長、地域第二課長、刑事課長、交通課長、警備課長、会務係員等 計 12名
議 題	1 所管業務説明 2 大規模自然災害に備えた諸対策の推進について	
1 会長挨拶 平素から署長を始め署員の皆様には、市民の安全安心を念頭に職務に邁進され、治安の向上に尽力していただき心から感謝申し上げます。 昨年度第4回目は新型コロナウイルスの影響で中止となったが、この度はコロナ情勢も落ち着いており、本年度第1回目となることから、皆様方のご意見を警察業務に反映させていきたいと思う。 諮問事項については、「大規模自然災害に備えた諸対策の推進について」である。災害はまさに起こり得ることであり、大規模自然災害に備える上でも、忌憚のない積極的な発言をお願いする。		
2 署長挨拶 （省略）		
3 警察署幹部、協議会委員による自己紹介 （省略）		

4 所管業務説明（署長）

(1) 生活安全関係

- 主な犯罪の認知状況（本年1月～4月）

(2) 刑事関係

- 刑法犯認知・検挙状況（本年1月～4月）
- 主な検挙事例

(3) 交通関係

- 交通事故発生状況（本年1月～4月）
- 死亡事故等の特徴等

5 諮問事項説明（警備課長）

「大規模自然災害に備えた諸対策の推進について」をパワーポイントにより説明

6 協議・検討

（委員）

諸対策の中で「リエゾン」という言葉が出たが、どういう意味か。

（警備課長）

市役所等の関係機関が災害対策本部を立ち上げた際に、警察官がその対策本部へ情報伝達役として派遣されるが、その警察官を「リエゾン」と呼んでいる。フランス語で「橋渡し」の意味である。

（委員）

私が市の総合防災担当課にいた時に災害現場での仕事に従事したが、事前に地域行政推進委員により作成された「要救助者名簿」を基に被災者の優先順位を定め、優先度の高い者から救助する仕組みができていた。こういう名簿があれば役に立つ。

（委員）

配布されたハザードマップを改めて確認したが、いわゆる市内中心部の三角州以外の山間部には「土砂災害警戒区域」が多く、その区域で実際に土砂災害が起るべくして起きている。

萩市では、防災にかかわる人員を増員したと聞いているが、「私に限って被害に遭うことはない」と言われる方が多く、避難のタイミングを逃すこともある。また、避難場所への移動時に被災することも考えられ、避難のタイミングが最も大事と思う。

市は避難をスムーズに行うために必要な体制を構築しているが、避難行動をとるための説明が足りないと感じている。

（警備課長）

自主防災のメインは、「消防団」である。また災害危険箇所についても、過去に発生した箇所以外は、なかなか把握できていないのも事実である。

阿武町では、自治体において「ため池の調査」を行っているという情報がある

が、警察としても自治防災の方と危険地域を見て回り、情報を共有し危険箇所を把握していきたい。

(委員)

高齢者の中には、「私は家から動きたくない」という方もおり、避難措置がスムーズに行かず、自助・共助だけではなかなか難しいところがある。

(委員)

自治会では、地元高齢者に対し「あなたは家の中のどこで寝ていますか」といった確認を行っており、災害発生時に真っ先に探すことができ、その情報共有は大事である。

しかし、質問内容によっては、個人情報保護法が壁になることもあり、質問に答えてくれない者もいる。

(委員)

平成25年、須佐の大災害が発生した時、ご近所とのつながりもあり支援しやすかったが、今では隣近所での付き合いもなく、若者の価値観も異なり、人との距離も遠く、そのような人たちによって街が作られていると感じた。このような現状で災害が起きれば、避難誘導が機能しないのではないかと心配である。

(警備課長)

価値観の多様性についての話では、昨年もペット同伴の避難についての話題があり、課題が残るところである。

(委員)

がけ崩れが起きた時に、土砂災害危険区域であることを改めて気付かされ、「自分の命は自分で守る」という意識が必要と感じた。どこで何が起こるかかわからない時代なので、自分が住んでいる所をよく知っておくことが大事である。

(委員)

異常気象等については、天気予報等を見ることで災害に対する早めの避難行動等がとれる。また、市内は阿武川ダムにより守られていると言っても過言ではない。

明木地区にも阿武川の支流があるが、川底に砂が溜まり樹木も生えているため、大災害が来れば町ごと消滅してしまう。インフラ対策が必要であるが、自治体が追い付いていないのが現状である。

(委員)

田舎には高齢者が多く、その子供たちは都会へ出ている。民生委員の活動の一環として「高齢者の実態調査」を行うが、個人情報保護法を盾に断られることが多い。子供たちから、「他人に個人情報は言わないように」と指導を受けており、居住実態や緊急時の連絡先の把握が困難となっている。

民生委員の活動に対し理解が進むことに期待している。

(委員)

自然災害に関して「自分の身は自分で守る」という意識の大切さを改めて知った。萩市発行のハザードマップを見ると、自宅から一番近い避難箇所の施設が確

認できる。しかし、その施設に女性用トイレの有無などの情報がなく、自分であらかじめ施設情報を確認しておき、その上で避難施設を選択しなければならない状態では、ハザードマップとしては役に立たない。きめ細かい情報発信・提供が必要である。

(委員)

災害発生時は、人と人との協力が大事であり、また自分なりの情報収集も大事であることが理解できた。

7 その他意見、提言

(委員)

バスセンター通りのガードレール直近にのぼり旗が立っているが、これがはためくことで車から歩行者を発見しにくい状態にある。何か対策はないか。

(交通課長)

公共物に付いている場合は、違法であり指導の対象になるので、その場所について後ほど教示願いたい。現場確認のうえ措置を講じる。

(委員)

テレビなどで目にする「認否を明らかにしていない。」というのは、どのようなことが起こっているのか。

(副署長)

明らかにすれば捜査上の支障が生じる可能性があるということである。

8 配付資料

令和4年度第1回萩警察署協議会資料（警察署作成）

9 その他

次回開催 令和4年9月頃を予定。